

CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月に1回開催しています(P.36参照)。同委員会では3人の社外委員から「社外からの目」で意見をいただき、委員である社内の役員とともに議論を重ねています。2013年度の議論を踏まえた、社外委員からのコメントを紹介します。



シャープ株式会社 元社長
辻 晴雄

住宅が持つ可能性に挑戦を

CSRの考え方や取り組みは、これまでの寄付や法令遵守などの基本的なものにとどまらず、さまざまな社会的な課題を企業の持つ力を使って解決することへと大きく変化しています。

お客様目線で「目配り・気配り・心配り」を実践し、感動を与える商品を作り、最高のサービスを提供するだけでなく、企業は自らの本業を通して、環境や少子高齢化などの課題解決に取り組むことが求められているのです。

積水ハウスは、「住宅」がその解決に導くことができるさまざまな社会的課題を既に見すえています。CSR経営のビジョンとして、社会にどんな価値を提供していくのか明確であり、社員にとっては士気やロイヤルティを高めることにつながります。そして、住宅メーカーの責任と覚悟、さらには可能性を感じます。

社会のニーズや期待に応えられなければ競争には勝てませんし、社会にとって新しい価値を提供しなければ成長はありません。全社員が社会的な課題の解決に挑戦し、新しい価値を提供することで、社会とともに持続可能な発展を目指すことを期待します。

CSR委員会での コメントから

他社の不祥事例を見ると経営トップの危機に対する感覚が低いと思えてならない。経営トップにはいろいろな情報の中からリスクをかぎ分ける嗅覚が求められる。不作為の不祥事はいつ起こるか分からない。そのためにも数多くの現場と接点を持ち、若手社員と対話し、社員の不満や現場の問題を拾い上げる努力が必要である。



甲南大学 特別客員教授
加護野 忠男

リスク投資のよい循環

最近の積水ハウスの動きを見てみると、リスク投資のよい循環が現れているように思えます。海外の住宅事業、ラグジュアリーホテル事業、タワーマンション事業——いずれも大きなリスクのある事業であり、失敗する企業も多い。だから参入する企業が少なく、利益が上がります。本業で高い利益が得られるからこそ、リスク投資の余裕も出てきます。このリスク投資はあまり競争がないので高い収益を生み出します。その収益をさらなるリスク投資に使うことができるという好循環にもつながります。

一方、この好循環は悪循環に陥るリスクも持っています。失敗に懲りてリスクを避けようとするから競争の激しい市場に入ってしまう、儲からないという負のスパイラルです。

悪循環に陥ることなく、好循環を維持させるための鍵は三つです。第1に、リスクを恐れないという姿勢。第2は、無駄なリスクを回避するためのリスク管理。攻めのための守りの強化です。第3は、競争対応の差別化ではなく顧客満足の追求です。

顧客創造のための基本から外れないという姿勢を積水ハウスに期待します。

CSR委員会での コメントから

2014年度のCSR重点テーマは以下の2点と考える。一つは「真上げ」。そのための生産性アップをどのように行っていくか。生産性アップによりCO₂排出量を減らすこともできる。もう一つは「女性活用」である。部長クラスが何人いるかなど、近い将来問われることになるはずで、環境問題と同じくらいしっかり取り組んでいただきたい。



弁護士
加納 駿亮

積水ハウスの安らぎを世界の人々に

「最後まで諦めない」——メダルでなくてもベストを尽くしたあの笑顔、ソチオリンピックに出場したフィギュアフリーの浅田真央選手の演技に、世界は一つになったような感動に包まれました。また、41歳のレジェンド・葛西紀明選手から15歳の銀メダリスト平野歩夢選手まで、日本の選手達の活躍も見事でした。4年に1度、世界最高レベルのアスリートが集い、鍛え抜かれた精神と肉体をもって1000分の1秒を競う真剣勝負の場・オリンピック、そこでは世界に一時代を画した日本の得意競技でさえも、次世代の選手層の育成と競技力の強化に遅れを取れば、一気に世界のレベルから置き去りにされる厳しい現実も見せつけられました。

積水ハウスは、CO₂の削減、省エネ・創エネの追求でも極めて高レベルで、もうこれ以上は難しいという声もありそうです。しかし、目標を高く掲げ、「決して諦めない」で前進することが大切です。科学技術の進歩と併せ、この精神は次代を担う人材に引き継がれ、各部門が競い合って、積水ハウス全体として活力を強め、企業価値を一層高めていくことでしょう。「積水ハウス、今、天高く羽ばたけ!」。

CSR委員会での コメントから

住宅にIT技術が取り入れられていく中で、プラスの面ももちろん多いが、マイナス面も看過してはならない。ITが正常に動いている時は便利でいいのだが、いったん乱れると大変な混乱を来す。貴重で高度な個人情報が住宅に集積していく中で、これをどのように管理していくのか、初期段階である今のうちに問題点をクリアしておく必要性を感じる。